京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2024 年 7月　2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　　医学研究科

職 名・学 年　　博士課程4年

氏　　名　　西村 望美

助成の種類	**令和6年度　・　国際研究集会発表助成**		
研究集会名	2024年欧州リウマチ学会年次集会		
発表形式	☐ 招待　・　☐ 口頭　・　■ ポスター　・　☐ その他(		
発表題目			
開催場所	オーストリア・ウィーン・Messe Wien Congress Center		
渡航期間	2024年 6月　9 日　～　2024年　6月　15日		
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　☐ 有(　　)**		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	費　目	金額(円)
		航空運賃	124,546
		宿泊費	150,302
		滞在費	0
		学会参加費	47,212
		その他（国内移動費）	27,940
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は上述の国際学会への参加について助成をしていただき誠にありがとうございました。		

成果の概要／西村　望美

この度は、貴財団の国際研究集会発表助成を賜りましたことを心より感謝申し上げます。欧州リウマチ学会学術集会 2024 は、リウマチ性疾患に関する基礎研究や治療方法に関して最新の知見を共有することを目的とした国際会議で、今年度はウィーンのオーストリアで開催されました。世界中の研究者に自身の研究成果を発信できる恰好の場であり、この度私は幸運にも貴財団より渡航助成をいただきましたので、現地に参加し研究発表をしてまいりました。

私の今回の研究成果は「Comparative effects of b/tsDMARDs on incident Chronic Kidney Disease in Patients with Rheumatoid Arthritis: findings from the ANSWER cohort study」という演題です。関節リウマチ（RA）の患者は健常人と比較して慢性腎臓病（CKD）の発症率が高いことが知られており、その原因の一つとして慢性的な全身性炎症の関与が報告されています。生物学的製剤（bDMARDs）は RA の治療成績を大きく向上させ関節病変のみならず肺病変を含む関節外病変おいても大きな役割を占め、上述した CKD に対しても保護的に作用することが報告されています。しかしながら、bDMARDs には異なる作用機序の薬剤が複数含まれ、薬剤ごとに CKD に対する影響が異なる可能性が考えられました。また、本邦において近年新たに RA に対して承認された分子標的型抗リウマチ薬（tsDMARDs)が RA 患者の腎機能に与える影響についても明らかになっていませんでした。さらに、b/tsDMARDs の開発が進み、治療効果の優れた多数の薬剤が治療選択肢となる現状は喜ばしい一方で、有効性や安全性の面から、どの薬剤が最適かを患者ごとに医師が見極めなければならないという課題がありました。我々はこれらの背景を踏まえ、個々の bDMARDs や tsDMARDs が RA 患者の CKD 発症率に与える影響について明らかにするため、多施設合同データベース（ANSWER コホート）を用いて検討を行いました。ANSWER コホートに参画する関西の医療機関から、組み入れ基準及び除外基準に適合する RA 患者を組み入れ、交絡となりうる背景因子を傾向スコアによる逆数重み推定法で調整したうえで、各治療群（TNF 阻害薬群、CTLA4-Ig 群、IL-6 受容体阻害薬群、JAK 阻害薬群）における CKD 発症率を比較しま

した。2,187 名の患者（3068 治療コース）を最大 11 年間観察したところ、各治療群における CKD free survival probability は群間で有意に異なり、TNF 阻害薬群が最も高く JAK 阻害薬群が最も低い結果となりました。また CTLA4-Ig 群と比較して TNF 阻害薬群では有意に CKD 発症リスクが低く、JAK 阻害薬群では有意に高いという結果が得られました。効果修飾因子に関する探索的な解析においては, CKD 発症に対する JAK 阻害薬の影響が, 65 歳以上の患者で 65 歳未満の患者よりも有意に大きくなることが示されました。

これらの結果から我々は、TNF 阻害薬が real-world の RA 患者において他の bDMARDs や JAK 阻害薬よりも CKD の発症リスクを低下させる効果が高く, 一方で JAK 阻害薬は bDMARDs と比べて腎保護作用が低い可能性を初めて示しました。本研究結果は、とりわけ高齢者や合併症を有する RA 患者に対して、数ある治療薬のうちどれを選択するのが最適かを検討するうえで非常に重要であると考えます。

私は今回、この研究結果を欧州リウマチ学会において発表し、国内外の様々な研究者と自身のテーマについてディスカッションをすることで新たな視点に触れ、本研究を論文化するうえで、またさらに今後の研究を続けていく上で非常に重要な学びを得られたと感じています。また、シンポジウムや他研究者の発表を聴講することで、最新のリウマチ学に触れ、研究や臨床業務に対するモチベーションが高まりました。

本学術集会に参加するにあたり、資金面からサポートしてくださった京都大学教育研究振興財団の皆様に改めて御礼申し上げます。国際学会への参加し研究成果を発表することは研究に従事する身にとって大きな目標の一つですが、研究結果が演題として採択されても、渡航費や学会参加費の面での経済的負担が大きく、現地参加に際して二の足を踏む大きな要因になります。貴財団に研究助成をいただけたことが、今回の国際学会への参加の決め手となったと言っても過言ではありません。今回の貴重な経験を活かし、今後もリウマチ学の発展のために微力ながら研究活動を続けていきたいと考えております。